

時代を超えた風景とともに 貫一郎に思いを寄せる

壬生義士伝の
風景が広がる盛岡
この案内板が
その世界へと誘う



盛岡市観光推進委員会によるこの案内板には次のように記されています。

壬生義士伝

壬生義士伝は、浅田次郎氏（直木賞作家）の歴史小説。南部盛岡藩士・吉村貫一郎が、家族のために新撰組に入隊、愛と義を貫いた感動の作品で、平成十四年、十五年と相次いでテレビ化・映画化され人気を博した。

上の橋

盛岡城の築城とともに架けられた橋。吉村貫一郎にとって忘れがたい橋で、京の二条大橋に佇み「盛岡にも擬宝珠のついている橋がある」と懐かしんだ。脱藩する際、親友の大野次郎右衛門とこの橋で別れている。映画壬生義士伝では貫一郎が幼い娘のミツにこの橋で別れを告げ、涙を誘う。

盛岡市内には、この他にも壬生義士伝案内板がありますので、一度探してみてもいかがですか？

